

令和元年度  
読谷村教育委員会事務点検・評価報告書

令和2年 12 月  
読谷村教育委員会

## 1 趣旨

読谷村教育委員会においては、効果的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たすため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条第1項の規定に基づき、令和元年度読谷村教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、事務事業の点検及び評価を行い、読谷村教育委員会事務点検・評価報告書にまとめました。

## 2 点検・評価の対象

点検及び評価の対象は、読谷村ゆたさむらビジョン施策体系及び読谷村教育振興基本計画施策体系に基づき、教育委員会の重点課題事項として抽出した主要な事務事業(33事業)としました。

## 3 点検・評価の実施方法

(1) 点検及び評価にあたっては、事業の進捗状況等を明らかにし、自己評価(4段階)を行い、課題等を分析するとともに、今後の対応策を示しました。

(2) 自己評価は、その成果を4段階で評価しました。評価の段階は次のとおりです。

段階	評価内容
A	目標を上回る成果があった。
B	目標を達成する成果があった。
C	目標達成に至らなかった。
D	実施しなかった。

(3) 点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方々(学識経験者)の様々なご意見、ご助言をいただきました。ご意見をいただいた方々は、次のとおりです。

学識経験者	経歴等
佐久川 政一	元社会教育委員会議議長、元小学校校長
我如古 清秀	社会教育委員会議議長、元小学校教頭

#### 4 点検・評価結果の構成

(1) 施策名

令和元年度重点施策5施策の33事業ごとに点検評価をしています。

(2) 事業の目標

各事業の目標を掲げています。

(3) 令和元年度の取り組みの概要

各事業の目標達成に向けて、令和元年度に実施した主な取り組みを記載しています。

(4) 進捗状況

対象事業のこれまでの取り組みの成果を記載しています。

(5) 自己評価

令和元年度の取り組みについて分析し、自己評価した内容を記載しています。

(6) 今後の課題

令和元年度までの取り組みを踏まえ、今後の取り組みを進める上での課題を記載しています。

(7) 対応策

今後の課題を解決するための対応策を記載しています。

(8) 学識経験者のご意見

学識経験者の方々からいただいたご意見等について記載しています。

令和元年度 事務点検・評価対象事業一覧

	担当部署		事業名	評価	頁
1	教育総務課	教育総務係	教育委員会事務局運営事業	B	4
2			小学校要保護及び準要保護児童生徒就学援助費補助事業	B	5
3			中学校要保護及び準要保護児童生徒就学援助費補助事業	B	6
4		施設係	小学校校舎改修等事業	B	7
5			中学校校舎等維持補修事業	B	8
6		学務係	預かり保育事業	B	9
7			小学校ICT環境整備事業	B	10
8			小学校学習支援員配置事業	B	11
9			中学校学習支援員配置事業	B	12
10			幼稚園教育支援員配置事業	B	13
11	学校指導課	学校指導係	学力向上推進事業	B	14
12			特別支援教育推進事業	B	15
13			中学生海外ホームステイ派遣事業	B	16
14			青少年センター事務運営事業	B	17
15	給食調理場	給食係	読谷第二給食調理場運営事業	B	18
16	生涯学習課	生涯学習係	まなびフェスタ事業	B	19
17			放課後子ども教室推進事業	B	20
18			宇座コミュニティ施設建設事業	B	21
19			大木地区学習等供用施設改修事業	B	22
20		スポーツ振興係	後援団体育成事業	B	23
21			体育施設運営事業	B	24
22			川回る広場整備事業	B	25
23		図書館係	図書館運営事業	B	26
24		文化センター係	ふれあい交流館自主事業	B	27
25			文化センター施設管理運営事業	B	28
26	鳳ホール自主事業		B	29	
27	文化振興課		文化振興係	座喜味城跡保存活用計画等策定事業	B
28		返還軍用地埋蔵文化財発掘調査事業		B	31
29		世界遺産座喜味城跡活用事業		B	32
30		博物館教育普及事業		B	33
31		博物館管理運営事業		B	34
32		ユンタンザミュージアム南側駐車場整備事業		B	35
33		村史編集係	沖縄語保存継承事業	B	36

1	事業名	教育委員会事務局運営事業		
担当部署	教育総務課 教育総務係	事業費	10,951千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実		

事業の目標	本村の教育行政の円滑な実施を図るため、教育委員会事務局に関する業務を実施する。			
令和元年度の取り組みの概要	読谷村教育委員会事務局の庶務業務を実施した。 平成30年度から繰越した「読谷村教育振興基本計画(令和元年7月)」を策定した。			
進捗状況	「読谷村教育振興基本計画」 全100頁 200部 「読谷村教育振興基本計画(概要版)」 全8頁 600部			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	初めて、本村の教育行政の目指す方向性や理念を示し、教育振興のために必要な施策を位置付けた「読谷村教育振興基本計画」を策定することができた。 なお、同基本計画は、平成30年度に策定する計画であったが、「読谷村ゆたさむらビジョン」を踏まえた策定が必要であったため、令和元年度の策定となった。			

今後の課題	「読谷村教育振興基本計画」に基づいた教育行政を推進するため、同基本計画の周知を図る取り組みが必要である。 また、計画期間が5年間(令和元年度～5年度)であるため、計画期間の最終年度には、それまでの取り組みを踏まえた改訂作業が必要である。			
対応策	日ごろから、「読谷村教育振興基本計画」を意識した業務に取り組み、同基本計画の浸透を図る。 また、「読谷村教育振興基本計画」の改訂にあたっては、計画期間の最終年度よりも早い時期(令和4年度)に取り組みを開始する。			

学識経験者のご意見	令和元年7月に、教育基本法に基づき、国・県の基本計画を受けて読谷村教育振興基本計画が策定された。関わられた皆さんご苦労様と申し上げたい。今後、同計画が「村ゆたさむらビジョン」「村ゆたさむら実行プラン」を受けた形で、具体的に実践されていくことが期待される。少し古くなったと言われるが、「PDCAサイクル」を意識し、「評価」「改善」していく事で、5年という短い期間だけのプランだけでなく、「百年の大計」に繋げていくことを期待している。			
-----------	---	--	--	--

2	事業名	小学校要保護及び準要保護児童生徒就学援助費補助事業		
担当部署	教育総務課 教育総務係	事業費	35,827千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実		

事業の目標	経済的理由により就学困難と認められる小学生の保護者に対して必要な援助を行うことにより、義務教育の円滑な実施を図る。			
令和元年度の取り組みの概要	<p>小学6年生の要保護・準要保護認定者に、「修学旅行費」を支給した。</p> <p>また、準要保護認定者に、「学用品費」「通学用品費」「学校給食費」「校外活動費」「医療費」を支給し、小学校入学予定者及び小学6年生の準要保護認定者に「新入学準備金」として「新入学用品費」の前倒し(2月)支給を実施した。</p> <p>そして、認定期間終了から次の認定期間開始までの期間を短くするため、認定期間を「4月から翌年の3月末まで」から「7月から翌年の6月末まで」に見直した。</p>			
進捗状況	要保護 認定者 7人(小学6年生) 準要保護 認定者 452人 全児童数における就学援助認定者の割合15.46%			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	全児童数における就学援助認定者の割合が前年度の14.62%から15.46%に上がっており、制度の周知がより進んでいると考えられる。			

今後の課題	対象世帯に対し必要な時期に必要な援助を行えるように、認定作業の迅速化及び効率化を図り、援助費の支給時期を早めることが求められる。			
対応策	年度が変わる時期に援助認定者の情報確認を行い、新年度の事務が迅速に取り組めるように努める。			

学識経験者のご意見	<p>経済的な理由で、就学が厳しい児童の保護者に対して、必要な就学援助費を支給していくことは、教育の機会均等を図り、どの子にも将来の自己実現に向けての可能性を広げていくという意味で重要な事業となる。制度の周知や、認定作業、支給時期の前倒しなど、前年度に課題としてあがっていた事項の改善がなされてきている事、担当者の努力を評価したい。今後とも効率的な補助、支給がなされるように期待したい。</p>			
-----------	---	--	--	--

3	事業名	中学校要保護及び準要保護児童生徒就学援助費補助事業		
担当部署	教育総務課 教育総務係	事業費	20,577千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実		

事業の目標	経済的理由により就学困難と認められる中学生の保護者に対して必要な援助を行うことにより、義務教育の円滑な実施を図る。			
令和元年度の取り組みの概要	<p>中学2年生の要保護・準要保護認定者に「修学旅行費」を支給した。</p> <p>また、準要保護認定者に、「学用品費」「通学用品費」「学校給食費」「校外活動費」「医療費」を支給した。</p> <p>そして、認定期間終了から次の認定期間開始までの期間を短くするため、認定期間を「4月から翌年の3月末まで」から「7月から翌年の6月末まで」に見直した。</p>			
進捗状況	<p>要保護 認定者 5人(中学2年生)</p> <p>準要保護 認定者 219人</p> <p>全生徒数における就学援助認定者の割合16.28%</p>			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	全生徒数における就学援助認定者の割合が前年度の15.22%から16.28%に上がっており、制度の周知が進んでいると考えられる。			

今後の課題	対象世帯に対し必要な時期に必要な援助を行えるように、援助認定作業の迅速化及び効率化を図り、援助費の支給時期を早めることが求められる。			
対応策	年度が変わる時期に援助認定者の情報確認を行い、新年度の事務が迅速に取り組めるように努める。			

学識経験者のご意見	<p>どの子どもその生まれた家庭環境によって就学の機会に差が付くことは、あってはならないことである。経済的に援助が必要な生徒の保護者に、適切な援助を支給することは行政のみならず、社会の義務でもあると思う。就学援助費の補助事業が、継続・拡充していることは、高く評価される。小学校と同様、課題とされた認定作業のスピードアップ、支給時期を早めるなどの取り組みもなされ、事業の拡充がみられる。今後とも継続をお願いしたい。</p>			
-----------	--	--	--	--

4	事業名	小学校校舎改修等事業		
担当部署	教育総務課 施設係	事業費	17,610千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	……	子どもの教育の充実	

事業の目標	平成29年度「小学校校舎改築等準備計画」で、最優先に改築等が必要とされた古堅南小学校の安全・安心な教育環境の確保を図る古堅南小学校校舎の増築及び改築に資するため、校舎改築基本設計修正業務(耐力度調査)、校舎改築基本計画策定に係る事業を実施する。			
令和元年度の取り組みの概要	古堅南小学校校舎増築に伴い必要諸室の整理と標準的な室の大きさ及び要望等の整理を行うため、関係各課・学校・地域住民とのヒアリングを行い古堅南小学校校舎改築基本計画を策定した。また、劣化状況を把握するため施設の耐力度調査を行った。			
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>古堅南小学校校舎改築基本計画修正業務(耐力度調査)を実施</li> <li>古堅南小学校校舎改築基本計画を策定</li> </ul>			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	関係者や地域住民の意見を反映した古堅南小学校校舎改築基本計画を策定することができた。また、施設の劣化状況を把握することができた。			

今後の課題	基本計画策定の結果、概算工事費が約44億程度想定されることから、今後の学校建設計画も鑑み事業費の縮小の検討が課題である。			
対応策	次年度予定している実施設計の中で、事業費縮小の検討を行う。			

学識経験者のご意見	<p>子ども達が一日の大半を過ごす学校は、学力の向上や子ども達の心身の発達に必要で安全・安心な学習環境を備えていなければならない。経年劣化の著しい学校校舎の計画的な整備・改修は、教育行政の重要な施策である。</p> <p>今後、「古堅南小学校校舎改築基本計画」が策定され、古堅南小学校の増築、改築が進んでいく事を期待を持って見ていきたい。予算の確保や事業費の縮小等、課題もあるようだが、何とか解決して新校舎の完成まで、ご尽力願いたい。</p>			
-----------	---	--	--	--



5	事業名	中学校校舎等維持補修事業	
担当部署	教育総務課 施設係	事業費	9,048千円
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実	

事業の目標	<p>古堅中学校で強風時に運動場から発生する砂埃による環境被害は、学校及び近隣住民にとって大きな懸案事項となっている。</p> <p>当該事業において、砂埃による環境被害の緩和及び安全・安心な教育環境の確保を図るため、運動場周辺の植栽帯への防砂ネット設置に係る事業を実施し被害の軽減を図る。</p>		
令和元年度の取り組みの概要	古堅中学校運動場から近隣住宅地へ発生する砂埃被害を軽減するため、植栽帯へ全長約300m(高さ2m)の防砂ネットの設置を行った。		
進捗状況	植栽帯へ全長約300m高さ2mの防砂ネットの設置完了		
自己評価	B	目標を達成する成果があった。	
	防砂ネット設置後は、近隣住民から学校や教育委員会への砂埃被害等の連絡はなく、被害軽減に繋がっている。		

今後の課題	経年劣化による破損及び部活動等の利用による破損により、効果が減少することが想定される。		
対応策	定期的に点検を行い、台風等の対策を実施することにより維持管理を徹底する。		

学識経験者のご意見	<p>古堅中学校に於ける、強風時の運動場から飛んでくる砂埃による近隣住民への環境被害が発生し、苦情も寄せられたようで、教育委員会としても、早急な対応を迫られた事だと推察する。植栽帯への防砂ネット(高さ2m全長300m)を設置をすることで問題解決となったとのこと。</p> <p>子どもは地域で育てる、と言われるように、学校と地域の信頼関係は大切。今後、定期の学校訪問(施設・整備)等で、問題を把握し、即対応していけるようにご尽力願いたい。</p>		
-----------	---	--	--

6	事業名	預かり保育事業	
担当部署	教育総務課 学務係	事業費	29,176千円
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子ども子育ての推進	

事業の目標	子育て支援及び保護者の就労支援を行う。
-------	---------------------

令和元年度の取り組みの概要	<p>保護者の要請に応じて、教育時間終了後や長期休業期間中に在園する幼児を対象に預かり保育担当職員を村内5幼稚園に配置して、預かり保育を実施した。</p> <p>また、10月から、幼児教育の無償化に伴い、午後の預かり保育時間を午後6時から6時30分へ延長し、午後7時までの延長保育は廃止した。</p>
---------------	--

進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育利用人数(園児数に占める割合)  渡慶次幼稚園59人(89.4%)、読谷幼稚園66人(81.5%)、喜名幼稚園61人(82.4%)、古堅幼稚園64人(72.7%)、古堅南幼稚園69人(92.0%)計319人(83.1%)</li> <li>・預かり保育担当職員  幼稚園5園に3人ずつ、合計15人を配置して、子育て支援及び保護者の就労支援を行った。</li> </ul>
------	--

自己評価	B	目標を達成する成果があった。
	<p>教育時間終了後や長期休業期間中に村立幼稚園に預かり保育担当職員15人を配置し、在園する幼児319人(83.1%)の預かり保育を実施したことで、子育て支援や保護者の就労支援に繋がった。</p> <p>また、幼児教育無償化に伴う村立幼稚園一時預かり保育料条例を一部改正し、利用時間の拡充を図った。</p>	

今後の課題	<p>預かり保育利用人数の園児数に占める割合は、平成29年度77.0%、平成30年度82.3%、令和元年度83.1%と年々増加していることから、今後も継続して取り組む必要がある。</p>
-------	---

対応策	<p>子育て支援及び保護者の就労支援を継続するため、預かり保育担当職員の適正な配置に努める。</p>
-----	--

学識経験者のご意見	<p>令和元年度の預かり保育利用人数の園児数に占める割合は、83.1%で、前々年度、前年度の77%、82.3%より増加している。その利用率の高さは、保護者のニーズに応える形の改善があったからだと思われる。子育て支援、保護者の就労支援の目標が達成されつつあるものだと思う。</p> <p>今後は、事業を継続しながら、預かり要件、保育時間などの見直し、職員の適正な配置などの課題にしっかり取り組んで頂きたい。</p> <p>子育ては、保護者が第一義的な責任者だが、行政の支援や地域の理解も大切である。</p>
-----------	--

7	事業名	小学校ICT環境整備事業		
担当部署	教育総務課 学務係	事業費	32,341千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実		

事業の目標	ICT機器活用により学校教育の質の確保を図るため、小学校にICT機器の整備を行う。			
令和元年度の取り組みの概要	パソコン教室については、前年度の3小学校に続き、今年度2校(古堅・古堅南)を整備し、全小学校の整備が完了した。 デジタル教科書については、教科書改訂に併せて5校、全小学校の整備を行った。			
進捗状況	パソコン教室については、5小学校のうち2校(古堅、古堅南小学校)の整備を行った。3校(渡慶次、読谷、喜名小学校)は前年度に整備済み。 教科書改訂に併せて、小学校5校にデジタル教科書の整備を行い、新年度より使用できるよう環境を構築した。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	パソコン教室を整備した小学校2校(古堅・古堅南)の児童へICT機器を活用できたかアンケートを実施したところ、87.9%が活用できたと回答があった。 また、デジタル教科書を活用した授業が分かりやすかったかアンケートを実施したところ92.5%が分かりやすかったと回答があった。以上のように「わかりやすい授業の実現、子どもたちの情報活用能力の育成」に繋がった。			

今後の課題	ICT機器については、GIGAスクール構想における1人1台タブレット端末等の整備が控えていることから、今後の状況を踏まえた整備を行う必要がある。			
対応策	GIGAスクール構想における1人1台タブレット端末等の整備が予定されているため、現在使用しているプロジェクター型の電子黒板を大型ディスプレイへ変更し、デジタル教科書だけでなく、タブレット端末でも利用できるように検討する。			

学識経験者のご意見	<p>「新学習指導要領」では、子ども達の「情報活用能力の育成を図るため、各学校においては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る」と示されている。パソコンやタブレットなどを教室だけでなく、日常的に活用することが求められている。</p> <p>これまで電子黒板やICT機器が整備され活用されているが、今後、タブレット端末1人1台など、環境整備と財源の確保を通じた学習活動の充実を推進して頂きたい。</p>			
-----------	--	--	--	--

8	事業名	小学校学習支援員配置事業		
担当部署	教育総務課 学務係	事業費	11,868千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実		

事業の目標	小学校の基礎・基本の定着、学力の向上のため、主に3年生を対象に学習支援員を配置し、個々の児童に応じたきめ細やかな学習支援を行う。			
令和元年度の取り組みの概要	小学校5校に1人ずつ学習支援員を配置し、抽象的な学習内容が増える算数の教科を学習する3年生を中心に支援を行った。			
進捗状況	<p>沖縄県学力到達度調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校3年生算数の平均正答率72.0% (県平均70.4%)</li> <li>・小学校3年生算数の無回答率1.5% (県平均2.0%)</li> </ul>			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	3年生の沖縄県学力到達度調査について、算数の平均正答率は、県平均正答率70.4%を上回っている。また、無回答率については、県平均無回答率2.0%を下回っており、基礎学力の向上が図られた。			

今後の課題	沖縄振興特別交付金事業が令和3年度終了予定のため、財源確保が課題である。また、3年生の学力向上が図られたことから、全学年を対象とした同様な事業の構築の検討が必要と考えられる。			
対応策	沖縄振興特別交付金事業の終了が迫っていることから、財源の確保に努める。また、村単独事業として学年に囚われず、学習に遅れが生じている児童を対象とする学習支援員の必要性について調査を行う。			

学識経験者のご意見	<p>発達心理学的にみると、10歳頃になると抽象的な思考力が高まるようになる。算数では、その思考の質的变化に合わせて記号を使った数式が多くなり、学習の抽象性が高まる。3, 4年生でつまずきが多くなるのはそのためである。そこで、各校に一人ずつ(3年生に)学習支援員を配置し、個々への対応をしていく、この事業の重要な事がわかる。学力向上が成果をあげているのを見ると、本事業の重要性がわかる。</p> <p>財源の確保が今後の課題とされているが、一人ひとりを大切にしたい支援員配置事業を継続し、充実・発展される事を期待する。</p>			
-----------	---	--	--	--

9	事業名	中学校学習支援員配置事業		
担当部署	教育総務課 学務係	事業費	4,475千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実		
事業の目標	中学校の基礎・基本の定着、学力の向上のため、主に1年生の数学を対象として学習支援員を配置し、個々の生徒に応じたきめ細やかな学習支援を行う。			
令和元年度の取り組みの概要	中学校2校に1人ずつ学習支援員を配置し、学習内容の系統性の強い数学を対象として、1年生を中心に支援を行った。			
進捗状況	<p>沖縄県学力到達度調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校1年生数学の平均正答率52.8% (県平均51.4%)</li> <li>・中学校1年生数学の無回答率6.5% (県平均8.5%)</li> </ul>			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	1年生の沖縄県学力到達度調査について、数学の平均正答率は、県平均正答率51.4%を上回っている。また、無回答率については、県平均無回答率8.5%を下回っており、学力の向上が図られた。			
今後の課題	沖縄振興特別交付金事業が令和3年度終了予定のため、財源確保が課題である。また、1年生の学力向上が図られたことから、全学年を対象とした同様な事業の構築の検討が必要と考えられる。			
対応策	沖縄振興特別交付金事業の終了が迫っていることから、財源の確保に努める。また、村単独事業として学年に囚われず、学習に遅れが生じている生徒を対象とする学習支援員の必要性について調査を行う。			
学識経験者のご意見	<p>学習内容の理解・習得には、個人差がある。特に数学に於いてはその傾向が顕著にあらわれる。そこで、系統性の強い数学を対象に学習支援を行うことは、基礎的な学力の定着に有効である。問題が解け、分かるようになると勉強が楽しくなり、学校生活そのものの楽しさへと繋がっていく。</p> <p>前年度は、各校に1名ずつの学習支援員を配置し、支援を行い、効果をあげているが、まだ課題は多いのが実情である。小学校と同じように、財源確保の課題もあるが、本事業を継続し、学力向上のために拡充していく事をお願いしたい。</p>			

10	事業名	幼稚園教育支援員配置事業		
担当部署	教育総務課 学務係	事業費	10,222千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子ども子育ての推進		

事業の目標	子育て支援、保護者の就労支援。			
令和元年度の取り組みの概要	幼稚園5園に1人ずつ幼稚園教育支援員を配置し、早朝から登園する園児の受け入れや担任の支援など、日常の保育の中できめ細やかな教育支援(補助)を行った。 また、待遇改善のため、勤務時間を5時間から7.75時間へ変更した。			
進捗状況	幼稚園5園に1人ずつ配置			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	幼稚園教育支援員を幼稚園5園に1人ずつ配置したことで、早朝から登園する園児の受け入れが可能となり、保護者の就労支援に繋がった。 また、教諭が研修等に参加する際には臨時的な学級担任として配置することで教諭の負担軽減が図られた。			

今後の課題	待遇改善を行い、成果はあったが、資格要件があることで人材の確保が難しい。			
対応策	村ホームページやハローワーク、学校関係者、地域の方などから情報収集を行い人材の確保に努める。			

学識経験者のご意見	幼稚園教育は、小学校・中学校へと続く「義務教育の基礎」と言われるぐらい大事なものである。各園に1人ずつ配置し、早朝から登園する園児の受け入れ、担任のサポートなど、日常の保育の中できめ細かな支援を高く評価したい。 早朝からの受け入れや預かり保育の時間延長など、厳しい勤務形態がある中、頑張っている担当職員の皆さんに敬意を表したい。 今後、課題であった待遇改善を行ったが、いろいろな情報収集を行い、人材を確保する事で、子ども達への支援が更に充実する事を期待したい。			
-----------	--	--	--	--

11	事業名	学力向上推進事業		
担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費	4,201千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実		

事業の目標	学校、地域、家庭の三者が互いに連携・協力し、県の学力向上主要施策「学力向上推進プロジェクト」に示された学力向上取り組みの重点を日常的に推進することにより、幼児・児童・生徒、一人一人の「確かな学力」を向上させ「生きる力」を育むこと			
令和元年度の取り組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は昭和63年度から継続実施されている。</li> <li>・各園、各学校での事業実施</li> <li>・読谷村学力向上推進協議会への補助金</li> <li>・中頭地区学力向上推進協議会への負担金</li> </ul>			
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校、幼稚園教諭の県外研修への派遣 小学校先進校視察研修派遣6人(秋田) 幼稚園先進園視察研修派遣3人(東京)</li> <li>・NIE研修派遣1人(栃木)</li> <li>・ICT研修派遣1人(京都)</li> <li>・読谷村学力向上推進協議会の取り組みとし、各小中学校、幼稚園において実践目標に沿って活動を実施した。また、保護者、地域と連携し学校運営の支えとなる活動につなげた。</li> </ul>			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園、小学校教諭の人材育成に繋がった。</li> <li>・児童・生徒の基礎学力の向上につながり、全国学力・学習状況調査で全国平均・県平均を全科で上回った例や体育専科が配置され体力測定A・B判定の児童が倍増し体力向上につながった。</li> <li>・各学校が目標設定して取り組むという体制が整ったことで目標がより明確になり実践に取り組んでいる。</li> </ul>			

今後の課題	幼児・児童・生徒の基本的な生活習慣の確立や学力向上に向けて、学校・家庭・地域が役割を明確にした体制の構築が必要。			
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の学力向上推進計画に基づき、読谷村の学力向上推進計画を立て事業を行う。</li> <li>・小学校の新学習指導要領完全実施に向けて、授業改善の研修を計画的に行う。</li> <li>・教諭を先進地に派遣し、学力向上に繋がる教師力の向上をめざす。</li> <li>・学校、地域、家庭の連携・協力体制の構築を図る。</li> </ul>			

学識経験者のご意見	<p>県の『学力向上推進プロジェクト』には、「授業改善」に重点をおき、日々の授業の充実を通して、確かな学力を身に付けさせ、生きる力を育むとある。その中の「方策6」には、「教育行政による効果的な支援体制の構築」とあり、教育行政による連携体制の構築と学校支援訪問等を通して、計画的、継続的に支援する事となっている。</p> <p>本村教育委員会の諸施策、特に県外視察研修等を通じた取り組みが充実してきており、それらの取り組みによって「確かな学力」の向上と「生きる力」の育成に繋がってきている事が実感されるようになった。</p> <p>今後とも、予算的な裏付けを確保し、教育行政による効果的な支援体制の構築を目指してご努力願いたい。</p>			
-----------	---	--	--	--

12	事業名	特別支援教育推進事業		
担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費	1,554千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実		
事業の目標	障がいのある幼児・児童・生徒に対して早期からの一貫した教育支援、教育相談体制の整備、関係者への研修の実施、医療・保健・福祉・労働等の関係機関との連携を図る。			
令和元年度の取り組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の障がいや教育的ニーズにあった就学先決定のための教育支援委員会の開催、教育相談の実施。</li> <li>・特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員の研修会の開催。</li> <li>・各幼小中学校へ巡回相談の派遣。</li> <li>・教育支援委員会に係る心理検査の実施。</li> </ul>			
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援委員会8回、(対象幼児・児童・生徒151人)</li> <li>・心理検査70件</li> <li>・就学に係る教育相談18回</li> <li>・巡回相談11回</li> <li>・特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員定例会5回</li> <li>・研修会1回「読谷村における特別支援教育について」</li> <li>・中学校にヘルパーの配置。</li> </ul>			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員の定例会での事例検討会や情報交換を行うことで幼・小・中・高の途切れのない連携した支援につなげることができた。</li> <li>・教育相談を丁寧に行うことで、委員会・学校・保護者の合意形成が図られ個々の障がいや教育的ニーズにあった就学先を決定することができた。</li> </ul>			
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援員、ヘルパーの配置</li> <li>・医療的ケアが必要な子に対しての看護師配置</li> <li>・学校、保護者の特別支援教育に対する意識の高揚と支援体制の整備</li> </ul>			
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や関係機関と連携し情報を共有しながら個々の障がいや教育的ニーズにあった支援体制を整備する。</li> <li>・教育相談の周知を徹底し、丁寧な教育相談を実施する。</li> </ul>			
学識経験者のご意見	<p>令和元年度の「特別支援教育推進事業」の諸取り組みを見てみると「目標を達成する成果があった」となっていて、進捗状況を見ても、しっかりと取り組んでいる事が分かる。しかし、課題も多々あり、次年度に向けての対応策を講じて行かれることを期待したい。</p> <p>障がいのある子どもたち一人ひとりの障がいの状態や教育的ニーズに応じて学びを保障するために「特別支援教育」があるが、大きな流れとしては、障がいのある人もない人も共に暮らしやすい共生社会づくり(インクルーシブ社会)を目指していく視点が必要になってくると思う。その意味での「基礎的環境整備」づくりの視点も課題となってくるのではないかな。</p>			



13	事業名	中学生海外ホームステイ派遣事業		
担当部署	学校指導課	学校指導係	事業費	3,300千円
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち		子どもの教育の充実	

事業の目標	海外での生活や体験を通して国際的な視野を持つ人材を育成するため、中学生を英語圏に派遣する。
-------	---

令和元年度の取り組みの概要	オーストラリア連邦ブリスベン近郊へホームステイ研修事業として派遣した。期間は、令和元年7月27日～8月17日の21日間。研修内容は、午前中現地の学校で英語レッスン、午後は視察、体験研修を行った。
---------------	---

進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村内在住中学生 11人 (読中6人、古中3人、沖縄尚学付属中1人、アミークス中1人)</li> <li>・累計201人(平成12年度から実施)</li> </ul>
------	--

自己評価	B	目標を達成する成果があった。
	帰国後、レポートの提出、報告会を実施、英語を交えて体験したことや異文化に触れて感じたことをプレゼンしてもらった。本人及び保護者へのアンケートによる回答から「継続して英語を学びたいと思った」「英語の成績が上がった」「家でのお手伝いを積極的にするようになった」など学習に対する意欲、親への感謝、積極性等に変化が見られた。	

今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の学習意欲の向上につながっているが、財源が確保できていない。</li> <li>・保護者の負担軽減が課題である。</li> </ul>
-------	--

対応策	予算に合わせた人数の制限や派遣場所の選定
-----	----------------------

学識経験者のご意見	<p>グローバル化が急速に進行する中で、子ども達が国際的な視野を持ち、英語でコミュニケーションがとれる人材に育てるため、本事業が平成12年から継続的に実施され、昨年までに201名の生徒を派遣している。参加した生徒、保護者アンケートからも学習に対する意欲、親への感謝、積極性等に好影響があったとの回答が寄せられている。今後とも継続していくことを期待する。</p> <p>今年度も、村内在住で村外学校の生徒の応募もあり、本事業により、将来の読谷村を背負って立つ有為な人材の育成が期待できる。</p> <p>ただ、本事業は、海外派遣のため、金銭的な負担が大きく、余裕のない家庭の子にも参加が可能になるような、補助金の拡充が重要であると考えます。</p>
-----------	---

14	事業名	青少年センター事務運営事業		
担当部署	学校指導課 学校指導係	事業費	7,335千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実		

事業の目標	児童生徒の抱える様々な悩み相談に応えるため、青少年センター相談員及び各学校に心の教室相談員を配置する。
-------	---

令和元年度の取り組みの概要	青少年センターに教育相談員(所長)とスクールソーシャルワーカー、臨床心理士を配置し相談事業を行うとともに、各学校へ心の教室相談員を配置し、学校の方針のもと児童生徒の心のケアや相談業務を行った。
---------------	--

進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年センター相談件数 延べ692件</li> <li>・SSW(スクールソーシャルワーカー)対応件数 274件</li> <li>・カウンセラー相談件数 実人数106人</li> <li>・心の教室相談対応(各学校ごと)</li> </ul> 渡慶次小学校214件、読谷小学校289件、喜名小学校46件、古堅小学校230件、古堅南小学校47件、読谷中学校1,411件、古堅中学校1,491件
------	--

自己評価	B	目標を達成する成果があった。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数は増加傾向にあり、専門的な相談員の配置と緊急な対応のためアドバイザーの派遣やヘルパーの配置、心の教室相談員の対応日数を増やし対応することができた。</li> <li>・文化センター図書資料室を学習室として確保することができた。</li> </ul>	

今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年センター学習室の確保。</li> <li>・児童・生徒の充実した支援のため関係機関との連携</li> </ul>
-------	---

対応策	より充実した教育相談体制構築のため各関係機関の役割を明確にした連携のあり方を構築する。
-----	---

学識経験者のご意見	<p>児童生徒は、家庭・学校・社会生活の上で、様々な悩みを抱えて不適応を引き起こす。そのような子ども達への対応として、青少年センターがしっかり体制を整え、機能していることに、敬意を表したい。ただ、前年度は相談件数が増加傾向にあり、更なる相談体制の充実が求められる。</p> <p>多様な相談内容に対応するためにも、相談や学習など十分に対応できるセンター独自の学習室の確保、職員の増員などの対応が必要である。教育相談に係る予算の確保、人員の拡充は欠かせない。</p>
-----------	--

15	事業名	読谷第二給食調理場運営事業		
担当部署	給食調理場 給食係	事業費	60,950千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実		

事業の目標	学校給食法に基づき、食の安全・安心、栄養バランスのとれたおいしい給食提供、児童生徒の健康、食育及び村民の食生活改善に寄与する学校給食運営をめざす。			
令和元年度の取り組みの概要	安全で栄養バランスのとれた給食の提供、食材物資及び調理作業の衛生・安全管理の徹底、また、施設整備などを行った。			
進捗状況	渡慶次調理場の機能を読谷第二調理場に移転し、渡慶次小学校(648人)、喜名小学校(505人)、読谷小学校(616人)、読谷中学校(822人)の児童生徒の給食を提供した。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	年間を通し、栄養バランスのとれたおいしい給食を提供することができ、児童生徒の心身の健全な発達に寄与することができた。			

今後の課題	学校給食法に基づき安全・安心な学校給食の実施を継続する必要がある。 近年、主食であるご飯やパン類、牛乳の価格高騰が続き、食材料費が上昇する中で、栄養バランスがとりにくくなっている。			
対応策	日常の安全・衛生管理を徹底し、職員の資質向上を図る。 限られた予算で栄養バランスのとれた給食を提供するため、献立の工夫を行う。今後、食材の価格等を考慮し、栄養バランスを確保することが困難であるとみこまれる場合は、給食費の改定を検討する。			

学識経験者のご意見	<p>食育は、生きる上での基本であり、知育・徳育・体育の基礎となる大切なものである。子ども達は心身の成長が著しく、人格形成の基礎を培う大事な時期にある。</p> <p>前年度、渡慶次調理場からの読谷第二調理場への機能移転により、全2,591人の給食を提供していただいた。今後も、安全・安心で美味しい給食作りにご尽力くださるようお願いいたします。</p> <p>また更に、給食に関わる皆様のご努力によって、「食文化」の継承、食の大切さ等の「食育」を多くの人に理解してもらうことを願います。</p>			
-----------	---	--	--	--

16	事業名	まなびフェスタ事業		
担当部署	生涯学習課 生涯学習係	事業費	347千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実		

事業の目標	<p>村内の社会教育関係団体並びにサークル活動の集大成として、毎年2月に生涯学習の祭典「まなびフェスタ読谷」を開催している。子どもから大人までが楽しめる体験型イベントや、舞台発表、サークル展示等さまざまな形での活動の成果発表の場として広く村民へ紹介することにより、村民の社会教育、生涯学習活動への参加促進を図る。</p>			
令和元年度の取り組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報よみたん、横断幕の設置、大型ビジョン、チラシ配布、村ホームページ等の広報活動を行った。</li> <li>・体験や講座、またサークル発表や展示発表などに取組んだ。</li> </ul>			
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・31の体験ブース</li> <li>・2講座の開設</li> <li>・16団体サークル発表、各種サークル作品展示</li> <li>・わくわくワーク参加事業所 10か所</li> <li>・2日間の延べ来場者数 9,226人</li> </ul>			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	<p>社会教育、生涯学習の集大成として開催することができ、延べ9,000人を超える来場者に多くのまなびの場を提供することができた。</p>			

今後の課題	<p>次年度については、文化センター講座室棟の空調機器改修工事及び防水工事を予定しているため講座室棟の施設使用ができない。新型コロナウイルスの状況もふまえ、開催方法について検討しなければならない。</p>			
対応策	<p>規模縮小または分散開催等を検討する。また関係課に依頼して、お仕事体験協力事業所へ、まなびフェスタ参加の可否についてのアンケート調査を行う。</p>			

学識経験者のご意見	<p>毎年開催される「まなびフェスタ」は社会教育や生涯学習の「まなびの学習」の成果発表の場、展示の場の提供として大変意義がある。身近な大人の学んでいる姿は、未来を担う本村児童生徒の見本であり社会還元にもなっている。今後の展開に向けては新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催方法の検討が必要である。</p>			
-----------	--	--	--	--

17	事業名	放課後子ども教室推進事業		
担当部署	生涯学習課 生涯学習係	事業費	4,322千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	子どもの教育の充実		

事業の目標	地域の公民館等を活用し、子ども達の放課後の安全安心な居場所づくりを図る。また、地域の大人と子ども達が異年齢交流を行い、触れ合うことを通して、子どもの主体性を育み、地域の活性化を図る。
-------	---

令和元年度の取り組みの概要	<p>7箇所延べ参加人数 7,309人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・儀間わんぱく広場 914人(週1回、木曜日開催)</li> <li>・波平わんぱく広場 540人(週1回、月曜日開催)</li> <li>・喜名わんぱく広場 826人(週1回、月曜日開催)</li> <li>・大添わんぱく広場 3,087人(週5回、月～金開催)</li> <li>・大木わんぱく広場 426人(週1回、月曜日開催)</li> <li>・横田わんぱく広場 625人(週1回、水曜日開催)</li> <li>・伊良皆わんぱく広場 891人(週2回、水、金曜日開催)</li> </ul> <p>※15:00～17:00の2時間開催。</p>
---------------	---

進捗状況	<p>前年度実績と比較して、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・延べ開催数461回(H30)→477回(H31)</li> <li>・延べ登録児童数243人(H30)→256人(H31)</li> <li>・延べ参加人数8,495人(H30)→7,309人(H31)</li> </ul>
------	---

自己評価	B	目標を達成する成果があった。
	入学式、入園式での広報活動に加え、自治会から見守り隊への参加ができそうな方を紹介していただき見守り隊が増加し、参加児童の安全安心な居場所づくりに貢献できた。また、伊良皆わんぱく広場の開催日が週1回から週2回に増えた。	

今後の課題	子ども達の安全安心な居場所づくりの確保のため、4人の見守り隊で対応しているが、毎回4人での対応が難しい場面もあるため、見守り隊の人員増加が必要。
-------	--

対応策	自治会や地域団体などへ見守り隊確保に向けて、協力のお願いや広報活動の強化をする。
-----	--

学識経験者のご意見	<p>子供達の中には共働き等で放課後一人で過ごす子、学校と家の行き帰りだけで決まった人間関係の中で生活する子が多くなっている。地域公民館を利用した「わんぱく広場」は子供達が安全安心に過ごせる「居場所の確保」と異年齢交流による「社会性の育成」に繋がり評価される。ボランティアの確保が課題となっており、各学校や地域自治体を通した各家庭への継続的な広報が必要である。</p>
-----------	--

18	事業名	宇座コミュニティ施設建設事業		
担当部署	生涯学習課 生涯学習係	事業費	173,460千円	
施策名	うち揃て創らな平和の世	住民自治の推進		

事業の目標	地域コミュニティの活性化を図るため、老朽化による雨漏りやコンクリートの剥離が著しく、また、動線に段差等の障害が多いことから、高齢者や子どもたちの安全な利用に支障をきたしている宇座公民館を建て替えることで利用者の安全を確保し、住民の地域活動の充実に寄与する。また宇座コミュニティ施設を設置することにより宇座区自治会長に指定管理を行わせる。
-------	--

令和元年度の取り組みの概要	宇座コミュニティ施設建設工事について、沖縄防衛局に補助金申請を行なった。また宇座自治会から指定寄附を受けるための調整を行なった。
---------------	--

進捗状況	宇座コミュニティ施設建設工事を工期内に完了することができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄筋コンクリート造平屋建て 建築面積 499.16㎡</li> <li>・集会室、休憩室(和室)、調理実習室、舞台等を備えた施設</li> </ul>
------	---

自己評価	B	目標を達成する成果があった。
	宇座コミュニティ施設建設工事を工期内で完了することができ、今後の地域コミュニティの活性化が期待できる。	

今後の課題	指定管理を行うことで、施設の活用及び維持管理を円滑に行えるが、将来的に指定管理者と施設の修繕について協議が必要となる。
-------	---

対応策	指定管理者との施設修繕について、協議する。
-----	-----------------------

学識経験者のご意見	前年度より進められた宇座コミュニティ施設建設工事が工期内に完了し、地域高齢者や子供達が安全・安心して利用できるようになり評価される。地域の方々の情報交換の場として公民館の機能を維持することは大切である。しかし、新型コロナウイルス感染症感染拡大により地域のコミュニティの場としての役割が困難な状況にある。今後の地域活動に向けては、十分な感染防止対策が講じられるか確認をしながら安全に行なわれるよう要望する。
-----------	--

19	事業名	大木地区学習等供用施設改修事業		
担当部署	生涯学習課 生涯学習係	事業費	9,900千円	
施策名	うち揃て創らな平和の世	……	住民自治の推進	

事業の目標	地域コミュニティの拠点整備として、大木地区学習等供用施設の改修事業を行い、利用者が安心・快適に利用できる施設整備を行う。		
令和元年度の取り組みの概要	大木自治会の要望を受け設計を進め、沖縄防衛局と調整を行った。また、予算に応じて改修内容の精査を行い、大木自治会に説明等を行った。		
進捗状況	大木地区学習等供用施設改修事業(改修実施設計)を工期内に完了することができた。		
自己評価	B	目標を達成する成果があった。	
	大木地区学習等供用施設改修事業(改修実施設計)を工期内に完了することができたので、令和2年度は改修工事に取り組んでいく。		

今後の課題	当初計画では1年目で実施設計、2年目で改修工事と2か年計画だったが、再編交付金積立額が見込み額を下回ったため、令和2年度での改修工事の完了ができなくなった。令和2年度については既存施設の改修を主とし、増築等については次年度にむけ今後も調整が必要となる。		
対応策	積立額及び改修工事について関係課と連携を図り、情報を共有することで早期の事業完了を目指す。		

学識経験者のご意見	大木地区学習等供用施設は、地域住民にとって身近な学習拠点として、また、誰もが気軽に集い交流できる拠点としても大切な役割となっている。しかし、施設の老朽化が進み利用者が安全・安心に利用できる環境確保が課題となっていた。今回、施設の機能を維持するために改修事業に向け第一歩となる改修実施設計が工期内に完了することができたことは評価される。今後、生涯学習の推進に向けて当該施設機能の充実に要望する。		
-----------	--	--	--

20	事業名	後援団体育成事業		
担当部署	生涯学習課 スポーツ振興係	事業費	8,756千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	スポーツの推進		

事業の目標	各種団体の活動により、スポーツ選手の育成やスポーツの楽しさや競技技術向上、青少年の健全育成等を目的とする。
-------	---

令和元年度の取り組みの概要	負担金を中頭郡体育協会など4団体へ、補助金を読谷村体育協会など6団体へ支出。
---------------	--

進捗状況	<p>スポーツコンベンション事業を関係団体と推進した。</p> <p>読谷村スポーツ振興推進協議会においては、助成金5件、激励金18件、褒賞金1件(合計:1,540,000円)の交付を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中頭郡体育協会負担金:1,808,693円</li> <li>・沖縄県スポーツ推進委員協議会負担金:2,908円</li> <li>・中頭地区スポーツ推進委員協議会負担金:9,182円</li> <li>・中頭地区社会体育研究協議会負担金:27,748円</li> <li>・読谷村体育協会補助金:5,109,000円、読谷村ソフトボール協会補助金:75,000円、読谷村ラグビーフットボール協会補助金:75,000円、読谷村サッカー協会補助金:75,000円、読谷村スポーツ振興推進協議会補助金:1,450,000円、少年野球読谷支部補助金:123,000円</li> </ul>
------	--

自己評価	B	目標を達成する成果があった。
	<p>各種団体へ負担金・補助金を交付し各種団体活動の支援を行なった。</p> <p>各種団体が補助金を活用し、独自の大会や講習会を開催しスポーツの楽しさや競技技術の向上、青少年の健全育成等に寄与した。</p> <p>村のスポーツコンベンションに関連して、村ソフトボール協会や村サッカー協会・村ラグビー協会などと、連携してスポーツキャンプの受入対応ができた。</p>	

今後の課題	派遣費の積極的な活用を促す工夫が課題である。
-------	------------------------

対応策	各種団体の総会や会合、講習会等で制度の説明や周知を行う。 村ホームページを活用しての周知。
-----	--

学識経験者のご意見	<p>スポーツ振興は、村民の心身の健全な発達に必要不可欠なものであり生涯にわたってスポーツに親しむことは極めて大きな意義を有している。推進に当たっては、各団体の期待する役割に応じ事業活動の強化を積極的に図ることが重要である。この視点から各種団体への負担金、補助金、諸活動や大会など支援・協力、村スポーツ振興推進協議会や激励会など献身的に行われその業績は大きい。今後、課題への対応に期待する。</p>
-----------	---



21	事業名	体育施設運営事業		
担当部署	生涯学習課	スポーツ振興係	事業費	86,748千円
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち		スポーツの推進	

事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村民の方がスポーツをする際に使いやすく環境の整った施設とする。</li> <li>・スポーツコンベンション実施や誘致を行っているため、トップアスリートの利用も行える施設として整備する。</li> </ul>
-------	---

令和元年度の取り組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニング室を一般開放した。</li> <li>・新設された読谷村トレーニング室へアドバイザーを配置した。</li> <li>・RWC2019 公認キャンプ地として、ZANPAプレミアム残波岬ボールパークの整備を行う。</li> <li>・繰越の屋外スタンド屋根修繕、ZANPAプレミアム残波岬ボールパークフェンス修繕を含む体育施設の修繕を行った。</li> </ul>
---------------	--

進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読谷村トレーニング室(延べ10,804人利用) 一般利用:延べ201日利用、8,641人利用があった。 キャンプ利用:延べ76日利用、2,163人の利用があった。</li> <li>・RWC2019 アメリカ代表公認キャンプとして、2019.9.17～24まで受入を行った。</li> </ul>
------	--

自己評価	B	目標を達成する成果があった。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読谷村トレーニング室を一般開放することで、村民ニーズ及びスポーツコンベンション事業に対応した。</li> <li>・ネーミングライツ契約(R1.4.1～R4.3.31)の締結により、新たな財源の確保を行うことができた。</li> </ul>	

今後の課題	トレーニング室については、村民及びスポーツキャンプでのニーズが多く、充実した活用の検討を要する。
-------	--

対応策	健康増進センターと連携し、アドバイザーの活用を充実させる。
-----	-------------------------------

学識経験者のご意見	<p>体育施設機能強化、拡充により村民のスポーツへの関心・健康増進への意識を高める取り組みとして整備計画が推進されていることは評価できる。また、キャンプの受け入れは、読谷村を全国にアピールするよい機会ともなっている。今後、多くの村民がスポーツに親しみ・楽しむことができるよう各施設が適切に提供されることを望む。今後とも体育施設の在り方を十分検討(財政面、利用状況、防災拠点、障害者スポーツ対応等)しながら有効活用できるよう期待する。</p>
-----------	--

22	事業名	川回る広場整備事業		
担当部署	生涯学習課 スポーツ振興係	事業費	259,839千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	スポーツの推進		

事業の目標	川回る広場を整備し、ソフトボール競技公式戦や大会の誘致及びスポーツキャンプ誘致へ繋げソフトボール競技の振興、読谷村観光の振興を図ると同時に地域住民の健康増進・余暇の充実等を目的とする。		
令和元年度の取り組みの概要	本工事(造成、排水設備及びトイレ・防球ネット等の付帯設備の設置等)1期目に着手する。		
進捗状況	本工事(造成、排水設備及びトイレ・防球ネット等の付帯設備の設置等)1期目については全て完了。		
自己評価	B	目標を達成する成果があった。	
	令和3年度供用開始に向けて、計画どおりに進捗している。		

今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度供用開始が決まっているため、計画的な事業執行が必要。</li> <li>・工事と並行し、備品購入を行い供用開始に向けて、円滑に進める。</li> </ul>		
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初、速やかに2期目の工事に着手する。</li> <li>・令和3年2月末までに備品購入を行い整備する。</li> </ul>		

学識経験者のご意見	<p>例年、中体連や高体連のソフトボール大会をはじめ日本代表のチームのキャンプが平和の森球場とその周辺で行われている。キャンプの受け入れは読谷村を全国にアピールするよい機会となり読谷村観光振興にも繋がっている。既存施設の機能強化・整備により村民のソフトボール競技への関心・健康増進への意識を高める取り組みとして推進されていることは評価できる。今後は、施設の完成に向けて年度計画をしっかりと検討し進めて貰いたい。</p>		
-----------	---	--	--

23	事業名	図書館運営事業		
担当部署	生涯学習課 図書館係	事業費	24,547千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実		

事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種図書館サービスを展開し、村民の生涯学習の充実を図る。</li> <li>・暮らしの中に役立つ情報センターとしての地域支援型図書館の確立。</li> </ul>			
令和元年度の取り組みの概要	<p>村民及び村内在学、在勤者、村外利用者の生涯学習の充実を図る。また、図書館資料及びレファレンス機能を活用し、地域課題の解決に対応する情報を広く提供し、暮らしの中に役立つ情報センターとしての地域支援型図書館として、村民サービスに寄与する。</p>			
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館日数263日、蔵書冊数116,929冊、貸出冊数97,809冊、新規登録者数756人。</li> <li>・読谷村、嘉手納町立図書館相互利用状況で、嘉手納町立図書館における読谷村民の利用数は、登録者数174人、貸出冊数25,674冊、利用人数4,713人。</li> </ul>			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館資料を購入し整備し、貸出、返却、予約、リクエスト、レファレンス等の利用者サービスに供することができた。</li> <li>・主催事業として、こどものためのろうどくかい、大人の為の夜の朗読会、読み聞かせボランティア養成講座の開催。夏休み期間の新企画として「絵本で世界を旅しよう」「読書感想文サポート講座」「夏休み自由研究サポート講座」を開催し、村民の読書活動支援を行うことができた。またボランティアの協力を受け、おりがみ教室やおはなし会等毎月定例行事を実施した。</li> </ul>			

今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出件数、貸出利用者の数が減少している。</li> <li>・図書館資料の増加に伴い、収納スペースが不足しており、閉架書庫資料の保管場所が数カ所に分散している為、利用者からの求めに応じ、それらの資料を探す際に時間を要することがある。(恒常的課題)</li> <li>・施設の老朽化。(恒常的課題)</li> </ul>			
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用促進の取り組みとして、村立図書館から遠い地域にブックポストを一カ所設置し、図書館以外の場所でも本の返却ができるように環境整備を行う。</li> <li>・施設の老朽化に対し、企画政策課と連携して、仮称読谷村総合情報センターの取り組みを進めていく。</li> </ul>			

学識経験者のご意見	<p>地域支援型図書館として、幅広い年齢層の村民を対象に図書館活動の周知を行う等、数多くの事業が取り組まれている。特に、積極的な各種読書企画・レファレンス機能活用・大人のための夜の朗読会は成果もあり評価できる。今後とも、よい取り組みを多くの村民に伝えられるよう、また入館者が多くなるよう、読書講演会や『広報よみたん』を活用した毎月の「図書館だより」の掲載、新着リスト・定例行事案内配布等、今の取り組みを充実させながら広報活動の継続が大事である。気軽に来館できるイベントの工夫を望む。</p>			
-----------	---	--	--	--

24	事業名	ふれあい交流館自主事業		
担当部署	生涯学習課 文化センター係	事業費	1,022千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実		

事業の目標	ふれあい交流館自主事業を通して、自主的な活動ができるよう講座や教室を開催し、生涯学習のきっかけづくりへつなげる。		
令和元年度の取り組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい交流館自主講座・教室の企画、運営を行う。</li> <li>・自治公民館講座の開催(自治会に委託)。</li> </ul>		
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい交流館自主講座、教室として、12講座、教室(野外シアター含む。)を開催し、延べ953人の受講参加があった。</li> <li>・自治公民館講座を、3自治会(大木・都屋・座喜味)で開催し、延べ39回、537人の受講参加があった。</li> </ul>		
自己評価	B	目標を達成する成果があった。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい交流館自主講座、教室を通して、生涯学習のきっかけづくりができた。</li> <li>・3自治会においては、自治公民館講座を開催することにより、学びの場としての自治公民館の活動支援ができた。</li> </ul>		

今後の課題	応募者数が少なく、実施が出来なかった講座や教室があった。		
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村広報だけではなく、ホームページ等を活用し多くの方へ講座、教室の案内や募集を呼びかける。</li> <li>・他市町村の講座実施状況の情報収集や、村民ニーズの把握に努め、幅広い講座、教室の企画等を行う。</li> </ul>		

学識経験者のご意見	<p>ふれあい交流館では、自主講座・各教室が開催され「生涯学習」のきっかけづくりとなっている。また、各自治公民館講座・公民館活動への支援も行われ、より良い地域コミュニティづくりの推進は評価できる。老朽化した施設の維持管理に努め防水工事、空調機器改修工事が計画的に進められ、利用しやすい施設づくりが進められ評価される。今後とも快適な生涯学習環境を提供するため適切な維持管理を望む。</p>		
-----------	---	--	--

25	事業名	文化センター施設管理運営事業		
担当部署	生涯学習課 文化センター係	事業費	97,391千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	生涯学習の充実		

事業の目標	鳳ホールとふれあい交流館の複合施設である文化センターの施設運営を行う。			
令和元年度の取り組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳳ホール:貸館日数111日、貸館件数117件、入場者31,652人の利用者が訪れた。</li> <li>・ふれあい交流館:貸館件数1,768件、来館者数52,344人の利用者が訪れた。</li> <li>・防水塗装工事(1,623.10㎡、2期目)、空調機器改修工事(275.9㎡、3期目)を実施した。</li> <li>・施設修繕として、音響機器(デジタルミキサー)修繕、鳳ホール屋根瓦修繕、誘導灯取替などの修繕を行った。</li> </ul>			
進捗状況	<p>鳳ホール、ふれあい交流館ともに利用者が快適に施設を利用できるよう、管理運営に努めた。</p> <p>また、平成28年度より「特定防衛施設周辺整備交付金事業」による、防水塗装工事、空調機器改修工事を実施し、現在計画どおりに進捗している。(令和3年度完了予定である)</p>			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	<p>鳳ホール、ふれあい交流館ともに利用者が快適に施設を利用できるよう、適切な管理運営ができた。</p> <p>また、防水塗装工事、空調機器改修工事とも計画通り進捗しているから、両工事についても、適切な執行管理ができた。</p>			

今後の課題	補助事業の継続実施により、不良だった空調機器の改修や雨漏り等に対する対策が実施されているが、法令の電波法関連法令無線設備規則の改正によりワイヤレスシステム(音響系)の入替が必要となる。			
対応策	今後は企画政策課と連携し、令和3年度にワイヤレスシステム(音響系)の入替を進めていく。			

学識経験者のご意見	<p>鳳ホール・ふれあい交流館の利用状況は良好である。鳳ホール・ふれあい交流館では適したタイミングで防水塗装工事・空調機器改修工事が実施され利用しやすい施設づくりが計画的に進められ評価される。施設老朽化に鑑み鳳ホール・中ホールの舞台機構については改修、買い替えが計画的に実施され村民の文化的諸イベントが継続的に使用できるよう要望する。</p>			
-----------	---	--	--	--

26	事業名	鳳ホール自主事業		
担当部署	生涯学習課 文化センター係	事業費	6,245千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展		

事業の目標	鳳ホール自主事業を通して、村民に芸能・芸術の感動と喜びを感じてもらうとともに、伝統芸能の保存・継承につなげていく。		
令和元年度の取り組みの概要	<p>①「NHKのど自慢」 本選出場20組(予選会出場250組)、来場者数581名(観覧申込1,520通)</p> <p>②「第10回読谷村民俗芸能祭」 出演者150名(大人11名/子ども139名)、来場者約400名</p> <p>③「沖縄県伝統芸能公演(重要無形文化財保持者等公演)」 来場者543名(入場整理券発行枚数750枚)、組踊ワークショップ参加者12名(小中学生)</p> <p>④「宝くじまちの音楽会(岩崎宏美with宗次郎～心のふるさとを求めて～)」 来場者数651名(チケット販売数672枚)</p> <p>⑤地域伝統芸能等保存事業(映像記録保存事業:長浜棒)</p>		
進捗状況	読谷村文化センターの開館から20周年となり、「NHKのど自慢」や「宝くじまちの音楽会(岩崎宏美with宗次郎～心のふるさとを求めて～)」などの事業誘致を行い、当初計画を行った全ての事業が実施できた。		
自己評価	B	目標を達成する成果があった。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸能、芸術に多くの方々の触れる機会の創出や、次世代への伝統芸能継承にも貢献できた。</li> <li>・長浜棒については、十数年振りの復活であり、今後の継承者育成へのきっかけ作りができた。</li> </ul>		

今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治会における次世代への伝統芸能の保存、継承が難しくなってきた。</li> <li>・「ミュージカルワークショップ」の開催を踏まえ、次年度の創作子どもミュージカルへ向けて、広く出演者の応募を行う。</li> </ul>		
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統芸能継承については、地域伝統芸能等保存事業(映像記録事業)を継続的に実施を行う。隔年で開催されている読谷村民俗芸能祭を開催し、保存、継承につなげていく。</li> <li>・出演者募集のお知らせを村広報誌や村ホームページ等を活用し、村内の小中学校でのチラシ配布を行い周知に努める。</li> </ul>		

学識経験者のご意見	<p>近年、高齢化に伴い各自治会における次世代への伝統芸能の保存・継承も難しくなっている。失われつつあり記録に残されていない伝統芸能を映像に記録・保存する事業は高く評価される。また、村民俗芸能祭で村内の伝統芸能を上演する機会を設けることは現在の担い手の把握、世代の担い手となる子供達へ興味を持たせるきっかけにもなり、今後とも継続的な開催を切望する。また、創作子どもミュージカルの取り組みは子供達の豊かな感性を築く上で大切な事業であり素晴らしい企画であり今後とも継続的な活動を期待する。</p>		
-----------	--	--	--

27	事業名	座喜味城跡保存活用計画等策定事業		
担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費	4,566千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展		

事業の目標	座喜味城跡は、昭和48年～60年度に13年をかけて県内初のグスクの史跡整備を完了したが、経年による遊歩道などの劣化や松の生育により遠望景観の変化、風水害による土砂崩れが起きている。また、世界遺産の登録により、外国人観光客の増加やユニバーサルデザインの要望等活用ニーズも高まっていることから、保存・活用・整備のあり方について、検討を行い保存活用計画を策定する。		
令和元年度の取り組みの概要	外部有識者による委員会を開催し、座喜味城跡保存活用計画を策定した。		
進捗状況	座喜味城跡保存活用委員会を3回開催し、現状と課題、保存、活用、整備等について議論を行い、座喜味城跡保存活用計画書を発刊した。		
自己評価	B	目標を達成する成果があった。	
	計画どおり、保存・活用・整備の方向性を検討、整理し計画書を発刊することができた。		

今後の課題	策定した計画に基づき、事業の実施が求められる。特に、近年は、土砂崩れなども起きており、史跡の崩壊に繋がりがかねないことから「保存」のための調査等は優先する必要がある。		
対応策	国庫補助メニューや人的対応を検討し、早期に実施できるよう調整を行う。		

学識経験者のご意見	座喜味城跡は、石門、城壁、展望台から景観もすばらしく読谷村の人気の観光スポットとなっている。また、村民の散歩コース、学校の遠足や社会見学の場所としての利用も多い。近年は、芸能やイベントが催されるなど様々なニーズも高まっている。しかし、経年による遊歩道劣化が見られ来訪者の安全性が損なわれてきている。そんな中、安全な保存・活用ができるよう整備計画案が策定されたことは評価される。今後とも十分な調査を行いながら世界遺産の適切な保存・活用・継承を望む。		
-----------	---	--	--

28	事業名	返還軍用地埋蔵文化財発掘調査事業		
担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費	27,185千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展		

事業の目標	返還軍用地等における埋蔵文化財の有無を確認するため、試掘・確認調査や発掘調査成果の整理及び発掘調査報告書の発刊準備を行う。
-------	---

令和元年度の取り組みの概要	大湾アガリヌウガン遺跡の調査報告書の刊行に向け、有識者による委員会を開催するとともに資料整理を実施した。 トリエ通信施設における発掘調査の現地確認、調整を実施した。
---------------	---

進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大湾アガリヌウガン遺跡の報告書発刊に向け、これまでに行った調査の図版の作成、写真の整理、観察表の作成等を実施した。</li> <li>・大湾アガリヌウガン遺跡調査検討会議を2回開催した。</li> <li>・県によるトリエ通信施設発掘調査の現場確認及び調整を行った。</li> </ul>
------	--

自己評価	B	目標を達成する成果があった。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な埋蔵文化財の保存と調整が図られた。</li> <li>・図版の作成等により、大湾アガリヌウガン遺跡の報告書発刊に向けた整理が進んだ。</li> </ul>	

今後の課題	大湾アガリヌウガン遺跡については、遺跡の指定を目指しつつ、報告書発刊に向けて取り組んでいるが、文化庁主任調査官より遺跡の価値付けの明確化を図る必要性について指摘があった。今後、再調査を行う必要がある。
-------	--

対応策	大湾アガリヌウガン遺跡の指定に向けて追加調査を行う。また同時に報告書発刊に向けた作業も行う。
-----	--

学識経験者のご意見	返還軍用地における埋蔵文化財の所在有無の試掘・確認調査、大湾アガリヌウガン遺跡の報告書刊行に向け計画的に取り組まれ高く評価する。埋蔵文化財の保存に向けては、今後とも十分な調査がなされ、文化財の国指定に向け計画的な事業の取り組みに期待する。
-----------	---



29	事業名	世界遺産座喜味城跡活用事業		
担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費	23,079千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展		

事業の目標	冬場及び夜間の観光メニューを創出するとともに、座喜味城跡の新たな魅力を発信する。			
令和元年度の取り組みの概要	冬場及び夜間の観光メニューを提供するため、座喜味城跡のライトアップを実施した。			
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に合わせて彩が変わるライトアップを令和元年12月20日から令和2年2月21日までの期間実施した。</li> <li>・ポスターやチラシに加え、ラジオや新聞、SNS等で周知を図った。</li> </ul>			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	2カ月の実施期間で10,854人の来場者があり、前回(平成27年度:10,476人/3か月)の実績を上回ることができ、座喜味城跡の新たな魅力を発信できた。			

今後の課題	ライトアップ期間後半に来場者が伸びていることもあり、一層の集客を図るためには、開催時期までにイベント周知を浸透させる必要がある。			
対応策	次回実施の際は、これまでより事業着手を早め、ポスター、チラシ、ラジオ、SNS等での広報活動を最適な時期に実施し、イベントの事前周知を深め、冬場及び夜間の観光誘客を図る。			

学識経験者のご意見	座喜味城跡夜間ライトアップで新たな魅力を発信することができ評価する。イルミネーションで来場者の数も期間中例年より実績が上回っており目標は達成されている。今後とも村内観光スポットと連携し、夜間観光メニューの輪を広げながら継続的な取り組みで観光振興に寄与することを期待する。			
-----------	---	--	--	--

30	事業名	博物館教育普及事業		
担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費	13,036千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展		

事業の目標	<p>村民に読谷村の歴史・文化・芸術・自然を理解してもらい、読谷村民としてのアイデンティティを確立してもらうことによって、これからの村づくりに寄与する人材を育成する。また、村外の方には読谷村の魅力を紹介し、読谷村の理解者になっていただく。</p>
-------	---

令和元年度の取り組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種講座の開催</li> <li>・地歴型マップの機能追加</li> <li>・職場体験・インターンシップ・学芸員実習の受入</li> <li>・年報、紀要の発刊</li> <li>・ミュージアム運営協議会の開催</li> </ul>
---------------	---

進捗状況	<p>慰霊の日講座、幼児紙すき講座、読谷の野鳥講座、しまくとくば・民話講座、工芸体験講座を開催し、計123名が参加した。読谷村の自然や文化、歴史に親しむきっかけや、アートを通して参加者同士が交流する機会を創出した。また、これまでに作成した各字ガイドマップのコンテンツを抜粋した地歴型マップサイトを構築した。</p> <p>年報・紀要の発刊、学芸員実習等で学生を受け入れたことによって、ユンタンザミュージアムの活動について広く情報発信することができた。</p>
------	---

自己評価	B	目標を達成する成果があった。
	<p>さまざまな分野の講座を開催(5種9日)したことで、幅広い年齢層の方に参加していただくことができた。地歴型マップの機能強化を行ったことで、地域の情報に触れやすい環境を整えた。また刊行物や学芸員実習等での学生の受け入れもユンタンザミュージアムの利用者の幅を広げることにつながった。</p>	

今後の課題	<p>講座の受講などをきっかけとしてミュージアムを訪れた方が、一度限りではなくその後も継続的に館に足を運んでいただけるようにする。また、高校生にあたる年代との繋がりが他の層と比べて弱いことが課題である。</p>
-------	---

対応策	<p>ミュージアムの企画の広報にSNSを活用したり、高校の美術部などと共同で行える取り組みを企画する。</p>
-----	---

学識経験者のご意見	<p>ユンタンザミュージアムは、本村に点在する歴史民俗資料・美術館として歴史資料や発掘物、美術品などを3万点ちかくを展示する多くの村民が期待した新しい施設である。アイデアを生かした講座や催しは、読谷村の自然や文化・歴史に親しむきっかけ作りやミュージアムの利用者の幅を広げることができた取り組みであった。今後とも多くの方が足を運んでいただけるよう行事案内や活動状況の情報発信を継続して行うことが必要である。</p>
-----------	--

31	事業名	博物館管理運営事業		
担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費	31,209千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展		
事業の目標	歴史・文化資源を保全し、地域文化や生涯学習・社会教育、地域振興の中核的拠点として博物館運営の向上を図る。資料の収集・保管・展示といった博物館機能を支える施設管理に加え、座喜味城跡ビジターセンターとして、インバウンド向けのサービスや来館者が快適に利用できるよう施設の維持管理を行う。			
令和元年度の取り組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エレベーター点検や防災設備点検等、各種保守・点検の実施</li> <li>・ミュージアムグッズの製作、販売</li> <li>・座喜味城跡パンフレット増刷、ミュージアムパンフレット(韓国語版)作成</li> <li>・備品の購入(収蔵庫用除湿器、紙幣/硬貨計算機)</li> <li>・展示室(床修繕・壁面クロス張り)等施設修繕の実施</li> <li>・Instagramアカウントの運用開始</li> </ul>			
進捗状況	<p>沖縄県立博物館開催の世界遺産登録20周年記念特別展「グスク・ぐすく・城」に合わせてミュージアムグッズを製作、販売し、座喜味城跡及びユンタンザミュージアムを広くPRした。また、上記特別展での設置および修学旅行団体向けに座喜味城跡パンフレットの増刷を行った。</p> <p>紙幣/硬貨計算機の導入を行い、閉館業務の負担軽減に繋がった。</p> <p>年間でパンフレットを37,000枚配布し、ユンタンザミュージアムの周知に繋がった。</p>			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	<p>施設管理、広報、インバウンド向け設備の充実など、今後の博物館運営の足掛かりになるような取り組みを実施することができた。</p> <p>入館者数32,162人となり、昨年度より多くの人に足を運んでもらうことができた。</p>			
今後の課題	来館を促進し、持続的に館を運営していくため、県内外への周知や団体客誘致に注力し、座喜味城跡のみを訪れる見学者をユンタンザミュージアムへ引き込む方法を検討する必要がある。			
対応策	県内外の誘致イベントへの参加やSNSを活用した情報発信をとおして、ユンタンザミュージアムを訪れたことのない人やリピーターに対する来館の働きかけを行う。座喜味城跡周辺に案内板を設置するなど、城跡見学者をミュージアムへ誘う「仕掛け」づくりにも取り組む。			
学識経験者のご意見	ユンタンザミュージアムは、旧歴史民俗資料館・美術館が統合し平成30年6月に開館しているが、常に来館者が快適に利用できるよう施設を維持管理することは重要である。時に博物館の運営の向上に向け備品購入・整備は定期的に計画・実施されなければならない。また、多くの来場者に優れた作品・実物に接する機会がもてるよう沖縄県立博物館と連携したPR活動は成果がある取り組みであった。今後とも施設間の連携・協同は必要と考える。			

32	事業名	ユンタンザミュージアム南側駐車場整備事業		
担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費	16,551千円	
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展		

事業の目標	ユンタンザミュージアム及び世界遺産座喜味城跡周辺の自然・歴史・文化資源を一層活用できるよう、周遊する観光客の誘客や来訪者の利便性を確保するために駐車場及びトイレ等付帯施設を整備する。			
令和元年度の取り組みの概要	ユンタンザミュージアム及び世界遺産座喜味城跡来訪者のための駐車場整備に向けた実施設計の実施			
進捗状況	駐車場及びトイレ等付帯施設の実施設計を完了した。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	ユンタンザミュージアム及び世界遺産座喜味城跡周辺を活用するための駐車場、トイレ等の配置計画が作成できた。			

今後の課題	整備後に、修学旅行や民泊等における更なる活用を図るため、周知を進める必要がある。			
対応策	修学旅行や民泊等における更なる活用のための周知方法についても検討し、旅行業者やバス会社、民泊協力会等の利用者に対し、継続的に周知を行う。			

学識経験者のご意見	ユンタンザミュージアム来場者の利便性を図るために駐車場に付帯する東屋やトイレ等の整備は不可欠な課題である。計画通りの取り組みが必要である。今回、駐車場及びトイレの整備に向けた設計業務が完了したことは評価される。今後ともPR活動や周知活動を進めユンタンザミュージアムや座喜味城跡への誘客で観光振興に寄与することを期待する。			
-----------	--	--	--	--

33	事業名	沖縄語保存継承事業	
担当部署	文化振興課 村史編集係	事業費	10,002千円
施策名	ちむ清らさあるひとの学び育ち	地域文化の創造発展	

事業の目標	沖縄独特の口承文化や歌詞を支えてきた沖縄語(しまくとぅば)の保存継承に寄与するため、生まれ育った地域の沖縄語で伝承されてきた民話や琉歌を調査・整理し、沖縄語に親しめる小冊子を製作し、沖縄語になじみの薄い幼児や児童生徒らに沖縄語の教材を提供する。		
令和元年度の取り組みの概要	『読谷村のしまくとぅば2～おばあが語るどうーよーじょー～』小冊子1,000部を製作し、村内保育園や幼稚園、小中学校、自治会事務所及びしまくとぅばの保存継承に取り組む個人や団体などに配布した。		
進捗状況	村内幼稚園、保育園、学童へ配布(50部)、村内小学校5校へ配布(400部) 村内中学校2校へ配布(80部)、村内自治会等へ配布(27部) 村内医療機関へ配布(40部)、県内図書館、資料館へ配布(40部) その他各種関係団体へ配布(170部)、保存継承に取り組む個人へ配布(193部)		
自己評価	B	目標を達成する成果があった。	
	保育園や幼稚園、小中学校、ゆいまーる共生事業などでの読み聞かせや、介護、福祉、医療機関等で活用することで、沖縄語に親しんでもらうことができた。 小冊子を発刊後、村内外からの問い合わせや提供依頼が多く寄せられ、反響がある。		

今後の課題	これまでに製作した絵本やCD、DVD、紙芝居の一部は、インターネット上での公開及びテレビ放映されている。今後もこれと同様にしまくとぅば小冊子を含め更に広く活用してもらえるように周知する必要がある。 また、活字だけではなく音声によるしまくとぅばの継承を図る必要がある。		
対応策	しまくとぅばの音声表記、読谷村各字の民話、語彙等をデータベース化し、沖縄語に関心を持ってもらい、学校や地域、更には沖縄県内外で活用できるようにする。		

学識経験者のご意見	本県では、今後30年間で「うちなーぐち」は危機的状況の可能性があるとされる。そんな中「読谷村のしまくとぅば2～おばあが語るどうーよーじょー～」小冊子1,000部を発行し、村内各保育園や幼稚園、小中学校、自治会事務所及び継承を推進する各個人・団体等に配布されたことの実績は大きい。今後、更なる取り組み推進のために本村の歴史や現状、人々の暮らし等を「うちなーぐち」で、記録・保存しておくことも肝要である。		
-----------	--	--	--